

幼児クラス（3・4歳児）

活動人数 11名

活動日 令和6年12月5日

活動時間 10:00-10:45



テーマ

秋の自然に触れ合う！

<テーマの設定理由>

秋になり、木々に変化が訪れてきました。浜町公園にも自然変化が起きており、「色が変わってる」「実が落ちてる」と興味津々の子ども達。公園内の落ち葉遊びや探求が始まりました。発見をもとに色々な変化や感触を見つけ、ワクワクを感じていく活動を記録しました。

どこで何をする？

<活動スケジュール>

● 浜町公園広場

● 秋の自然に触れ合う！

何が必要？

<環境デザイン・俊美物・環境設定>

● カメラ（記録用）

● 温湿度計

実践記録

<活動内容>

水たまりを観察してみよう。水たまりにふれてみよう。
気づいたことを試してみよう。

【2024年12月5日】 温度22.6度 湿度82%



公園に着くと水たまりをいくつか見つけることができた。

「水たまりたくさんあるよー！」

「先生触ってもいい？」

「いいよ。どうぞ」

水たまりを飛び越えてみたり、枝を使ってかき混ぜてみたりしている。

そのうち直接手で触れてみる子がでてくると、ぼくも！わたしも！と水たまりに手を入れて水や泥の感触を楽しんでいる。



「何をしているの？」
「水が流れるようにして、スタートとゴールがあるんだよ。」
「へえすごいね。どこまで行くの？」
「もうここから水こないんだよ。どうしようかな。」
水の流れるように、堀を深くしたり、新しいコースを作ったりしている。

「みずたまり冷たい？あたたかい？」
夢中になっていて声が届いていない様子。
しばらく沈黙が続く。
もう一度聞いてみる。
「〇〇ちゃん、みずたまりどう？」
感触をたしかめながら
「冷たいよ。」
「先生も試してみよう。」
「(水たまりを触って)思ったより結構冷たいね。」
「そうだよ。」



「先生、みて。」
木の枝を回しながら穴を掘っている。
わりときれいな穴ができる。
覗き込みながら
「ほら、水がでてくるんだよ。」
掘った穴に水がしみ出て穴の中が水でいっぱいになる。
「すごいね。えーなんで水が出てくるの。」
「違うところでもできるよ。」
水たまりから遠いところに穴を掘る。今度は全然水が出てこない。
「あれおかしいな。」
「やっぱり水たまりの近くがいいんじゃない？」
水たまりの近くにまた穴を掘る。
「あ！出てきたよ！」

「葉っぱならべてんだよ。」
「なんで？」
「あのね、バーベキューしてるの。」
「ここもうすぐ焼けるから、たべれるよ。」
「そうなんだ。もっと葉っぱもってこようか？」
「うん、いいね。」





「昨日のみずたまり！」
「もうないね。」
「どこにいったんだろうね。」
「向こうに流れていったんじゃない？」

「暑いからね。」
「今日は晴れてるからってこと？」
「そうそう。」

「おひさまがさ、お水もっていっちゃたんじゃない？」
「あったかいから、お水もっていっちゃたのかな。」
「え、ちがうよ。この中にはいっていっちゃったんだよ。」
「土の中に？」
「そうそう。」
掘ってみせてくれる。



「昨日はいっぱいあったのにね。」
「どこにいったんだろうね。」

「また、雨が降ったらもどってくるよ。」

「そうだね。今度はなにをして遊ぼうか。」

「葉っぱ浮かべるのはどう？」
「いいね、いいね。またやろうね。」

振り返り

<振り返りによって得た保育者の気づき>

毎年来る季節の中で年齢が違えと落ち葉や秋の探索遊びは、子ども達の興味が引くものだと感じた。落ち葉を上に投げ、雨をイメージする遊びが好きな子ども。しかし、「おめでとう」と上に投げ、紙吹雪をイメージのように遊ぶ場面も見られ、子どもによって見方の違いに驚いた。

。

。

言葉による伝え合い。自分がどう感じ、どう思ったのかを、言葉で仲間に伝えながら遊ぶ姿がありました。その言葉から、そうなのかな？ そうじゃないかもね。きょうこだよ。など言葉によって関わりが生まれ深まり、広がっていく様子があることに気づきました。